（別表）

評価基準

満点100点

評価項目	評価基準	配点（点）	得点（点）
1．総合的な評価		**20**	
業務の目的等の理解度	前田利家陣跡の歴史的価値及び本業務の目的（復元考証の成果をVRコンテンツ制作に活用すること）を十分理解しているか。本業務が、復元建築工事ではなく、遺跡の理解・展示・教育普及等を目的とした復元考証であることを把握しているか。	5	
方法の妥当性・独創性	・復元考証の手法（資料の収集・整理、根拠の検討、複数案の比較検討等）は明確で、仕様書の基本方針に沿っているか。 ・仕様書で求める内容（復元考証、復元根拠一覧表、復元設定台帳、設計概略図、マテリアル資料等）について全て提案されているか。 ・仕様書に示した内容以外の独自の提案があるか。	10	
計画の妥当性・効率性	・監修者を交えた打合せを組み込んだ、具体的で実現可能なスケジュールを提案できているか。 ・工程管理、品質管理（修正履歴の記録等）が具体的かつ実現性の高いものであるか。	5	
2．実施体制及び業務遂行能力に対する評価		**35**	
監修者の適格性	・提案する監修者の専門分野（建築史、日本建築史、城郭・城郭建築史、木造建築等）及び経歴が、文禄・慶長の役、陣屋といった時代・遺跡の性格に適しているか。 ・監修者による確認を、業務の各段階で受ける体制となっているか。	10	
組織としての実施能力	・会社概要（事業内容を含む。）から、本業務が遂行可能な人員の確保がなされており、かつ効果的な人員体制であると認められるか。 ・業務体制や窓口の連絡は明確か。	5	
実績	・史資料を用い、専門家の監修を受けて設計考証を行った実績を有しているか。 ・実績業務の取組状況及び業務のプロセスは、具体的で、本業務に活かせるものであるか。 （会社概要、実績書及びヒアリングにより評価する。）	15	
経費の妥当性	・見積額の内訳は妥当か。	5	
3．復元考証に対する評価		**15**	
復元考証の学術的妥当性	・発掘調査成果、同時代・同地域の資料等を根拠とした復元考証が行われる見込みか。 ・確実性のランク（A～D）及び復元年代（1592年を中心とした桃山時代）の設定と記録の方法が具体的か。 ・未確定事項について、現代的な意匠を補完せず、複数の復元案を比較検討して提示する方法が示されているか。	15	
4．VRコンテンツ制作への適合性に対する評価		**30**	
成果品の整合性・活用性	・復元考証の成果が、3DCG制作に必要な建物形状・構造・外観等として整理され、VRコンテンツ制作に利用しやすい内容となっているか。 ・配置図、イメージ図の作成方針が適切か。	10	
根拠・確度の記録の明確さ	・復元根拠一覧表、復元設定台帳において、根拠の種類及び確度が明確に整理される方針か。 ・推定部分やVR上の演出を、学術的復元部分と区別して記録する方法が示されているか。	10	
内容の品質	・マテリアル資料及び色彩考証が、根拠を明示して整理される方針となっているか。 ・図面、復元図等の成果品について、第三者が権利を有する資料の取扱いや、VR・展示等への利用に配慮した方針となっているか。	10	
合計		**100**	

注）最低基準点は、100点満点中65点とする。